

平成25年台風26号と 治水対策の効果

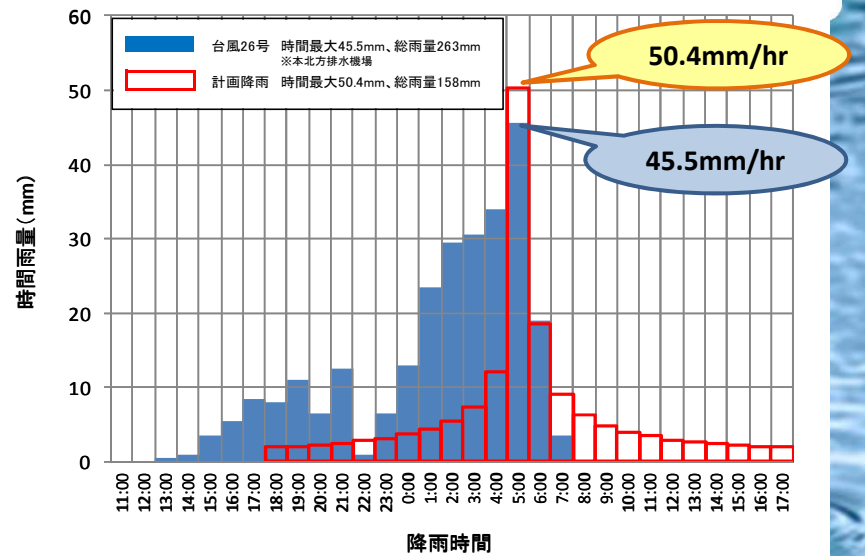
台風26号の概要（平成25年10月15～16日）

- ・ 総降雨量:263mm
- ・ 最大時間雨量:45.5mm（本北方排水機場）

○ 計画降雨を上回る降雨

台風26号は、ピーク時45.5mmの前に、時間降雨量30mmを超える大雨が3時間以上継続して降ったことや、総降雨量が263mmに及ぶなど、真間川整備計画で想定する降雨を上回るものでした。

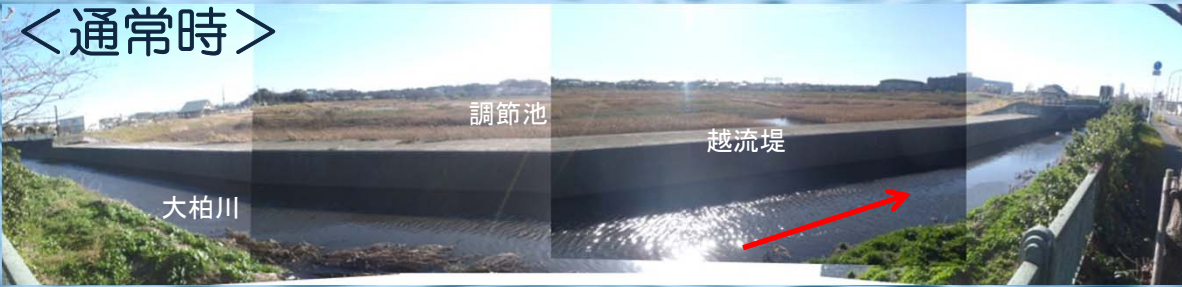
このような記録的な降雨により施設の能力を超えたことや、流された草木などのゴミが排水溝をふさいだことも重なり、市内で多くの被害が発生しました。



○ 機能を発揮した例

大柏川第一調節池

＜通常時＞



＜台風26号時＞

平成25年10月16日午前8時頃



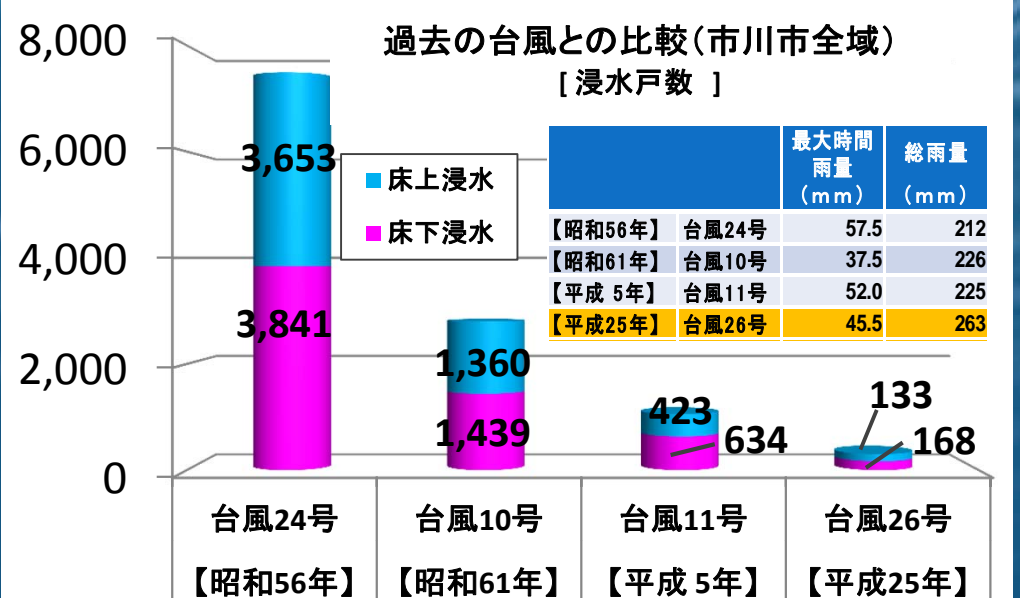
撮影:ぼっけ生きもの倶楽部

調節池で貯留した水量は、約210,000m³でした。
これは、小学校の25mプール 約560個分に相当し、北方町で最大98cmの河川水位を低下することができたと考えられます。

○ 過去に本市を襲った大きな台風と比較すると

市内各所で浸水被害が発生したものの、これまで本市を襲った大きな台風と比較すると、市街化の進展と相対的に、浸水被害は大幅に減少しています。

これまでに河川改修や、調節池などの治水施設の整備を進めてきましたが、これらの機能が発揮されただけでなく、**市民の協力のもと実施している雨水の貯留・浸透による流出抑制対策の効果**が表れたものと考えられます。



○ 行政と市民が一体となった流出抑制対策

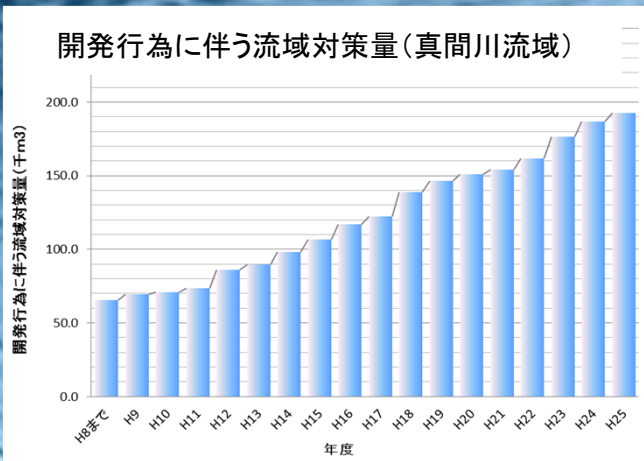
[行政]

学校の校庭や公園等に雨水を一時的に貯留する施設や、地下に浸透させる施設を設置しています。

※ こざと公園も右の写真のように雨水を貯留しました。

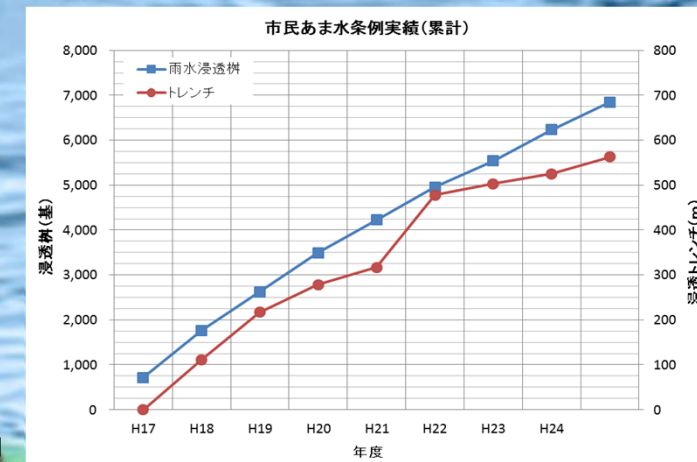


こざと公園



[市民]

新規に開発をする際には、雨水の流出抑制につながる調整施設の設置をお願いしています。



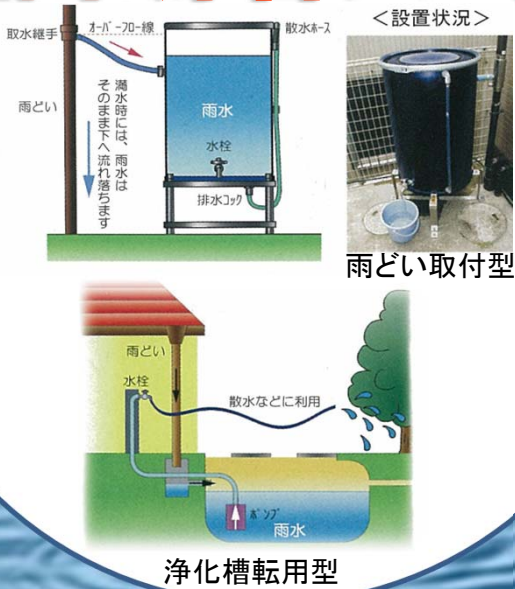
[行政・市民]

各敷地に降った雨水が、河川に一気に流入しないように、雨水を貯めるためのタンクや、地下に浸透させるための施設を設置してもらっています。

市の助成制度

詳しくはパンフレットをご覧ください

雨水貯留タンク



駐車場の緑化



雨水浸透施設



○ 今後の対策は・・・

県や市では今後、河川改修や排水路等の施設整備を効率的かつ効果的に進めていくとともに、市民の協力を得ながら一層の雨水流出抑制を推進するなど、浸水被害の軽減に向けて取り組んでいきます。

しかし、台風26号や、施設能力を超える規模の局地的な集中豪雨(ゲリラ豪雨)が発生する恐れもあるなか、全て施設整備で対応するのには限界があります。

そこで、予測できない自然災害に対して、被害を最小限に抑えるため、みなさんが出来る水害に備える取り組みをご紹介します。

生命と財産を守るため 自らも備えましょう！

1. 目頃から水害に備えることが大切です



排水溝にゴミや落ち葉が入らないように気をつけましょう。



止水板の設置には市の助成制度があります。
※ 詳しくはホームページをご覧ください。

土のう、水のうや止水板などを準備しましょう。



ハザードマップで避難場所・ルートを確認しましょう。

2. 大雨になりそうなきには早めに行動しましょう



土のう、水のうや止水板を設置しましょう。



車を高い場所に移動しましょう。



市川市防災情報 →

正確な情報を収集しましょう。

3. 浸水で避難せざるを得ないときには落ち着いて行動しましょう



早めの避難を心がけましょう。建物の2階が安全な場合もあります。



長靴は水が入ると動けなくなり危険です。



濁った水は足元が見えません。一歩ずつ慎重に歩きましょう。